

ドキュま!

山形国際ドキュメンタリー映画祭情報マガジン

Call for Entries

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019

2019年10月10日(木)~17日(水)

作品募集

国際コンペティション
第1次応募締切
2018年12月15日
第2次応募締切
2019年4月15日

アジア千波万波
応募締切
2019年5月15日

International Competition
The first deadline
December 15, 2018
The second deadline
April 15, 2019

New Asian Currents
Deadline
May 15, 2019

www.yidff.jp

YAMAGATA International
Documentary Film Festival
2019 October 10-17, 2019

金曜上映会
ミリキタニの猫《特別編》上映会
ユネスコ創造都市やまがた
Creative Café
ほか

101
Oct. 2018 Nov.

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019

YAMAGATA International Documentary Film Festival 2019

2019年10月10日[木]~17日[木]

作品募集中!

【応募締切】

◆国際コンペティション

第1次応募締切 2018年12月15日

第2次応募締切 2019年4月15日

<http://www.yidff.jp/2019/entry>

作品募集ポスター・デザインについては裏面へ



◆アジア千波万波

2019年5月15日

開催は
来年です!

山形国際ドキュメンタリー映画祭をご支援下さい

山形国際ドキュメンタリー映画祭は「認定NPO法人」です。認定NPO法人に寄せられた寄付金には、寄付金控除などの税の優遇措置が講じられ、寄付を行なう側、受ける側、双方に有利になります。映画祭や上映活動の継続、新しい事業へのチャレンジをご支援下さい! 詳細はWebサイトをご覧ください。
www.yidff.jp

(((山形国際ドキュメンタリー映画祭情報発信中)))

ブログ「ドキュ山ライブ」 www.yidff-live.info.....

@yidff_8989 @yidff

メールマガジン「YIDFFニュース」(毎月1回)
www.yidff.jp/news/subscription

コミュニティFM ラジオモンスター 76.2MHz 『モンブラン』内



次号発行は
12月1日

編集・発行: 認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭
〒990-0044 山形市木の実町9-52 木の実マンション201
電話: 023-666-4480 FAX: 023-625-4550
Eメール: info@yidff.jp ウェブサイト: www.yidff.jp

山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー 金曜上映会

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭が主催して月2回開催しています。会費・入会金は不要です。[11月は第2、第5金曜です。23日は上映会はありません。]

鑑賞会員無料(当日受付にてご入会下さい)

会場: 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー

山形市平久保100 山形国際交流プラザ(ビッグウイング)3F 試写室(40席)

10.12
金Fri

〈アメリカを旅する〉

▶14:00, 19:00 (2回上映)

ホテル・クロニクル

YIDFF '91国際コンペティション
監督: レア・プール/カナダ/1990/16mm/74分



▶15:40 (1回上映)

プレートーク&コモンセンス

YIDFF '89国際コンペティション
監督: ジョン・ジョスト/アメリカ/1987/16mm/117分



ひとりの女性が大陸を旅し、多種多様な人々の“アメリカン・ドリーム”とエピソードでアメリカをあぶり出す『ホテル・クロニクル』。ジョン・ジョスト監督が現代アメリカの状況を様々な視点から考察し、詩的かつ実験的に表現したシネマ・エッセイ『プレートーク&コモンセンス』。

10.26
金Fri

〈痛みと記録と物語〉

▶14:00, 19:00 (2回上映)

石の賛美歌

YIDFF '91国際コンペティション特別賞
監督: ミシェル・クレフィ/ベルギー/1990/35mm/105分



▶16:10 (1回上映) ロッツ・ゲッター

YIDFF '89国際コンペティション
監督: アラン・アデルソン、キャスリン・タヴェルナ/アメリカ/1988/35mm/103分



自国にいながら亡命者の立場を強いられるパレスチナ人の苦悩と、恋人たちの愛の物語を、互いにゆるやかに浸透させつつ描く『石の賛美歌』。残された日記や映像資料を集めてナチス占領下のポーランド、ユダヤ人収容所の歴史の再現を試みる『ロッツ・ゲッター』。

11.9
金Fri

〈山形ドキュメンタリー道場2018〉

▶15:00 (1回上映※開始時間注意)

赤道雨 YIDFF 2011 アジア千波万波

監督: 呉康豪(ノーヴァ・ゴ) / マレーシア、台湾 / 2010 / ビデオ / 132分



▶18:40 (1回上映※開始時間注意)

デノクとガレン YIDFF 2013 アジア千波万波

監督: ドゥウィ・スジャンティ・ヌグラヘニ
インドネシア / 2012 / ビデオ / 89分



監督
上映
後
ク

東南アジアの映像作家が蔵王に滞在し、作品に磨きをかける「山形ドキュメンタリー道場」に参加中の監督の2作品。マレーシア各地の独立・革命運動の歴史を探る『赤道雨』。インドネシアの新婚夫婦が、家族の強い絆とアイディアで困難を乗り越えようと頑張る『デノクとガレン』。

山形ドキュメンタリー道場(DDセンター) <http://ddcenter.org/>

11.30
金Fri

〈岸善幸監督とドキュメンタリー・ドラマ〉

▶14:00, 19:00 (2回上映)

少女たちの日記帳

ヒロシマ 昭和20年4月6日~8月6日

脚本・ディレクター: 岸善幸 / 制作・著作: NHK、テレビマンユニオン / 2009 / 109分



▶16:20 (1回上映) ラジオ 演出: 岸善幸

制作・著作: NHK、テレビマンユニオン / 2013 / 89分

『二重生活』(2016)、『あゝ、荒野』(2017)の岸善幸監督(最上町出身)による2作品。広島の子供たちの少女たちの日記帳を元に、入学式から原爆投下までを描く『少女たちの日記帳』。被災地女川で、「ブログ」と「ラジオ」を通じて自分を取り戻していく女子高生と仲間たちの物語『ラジオ』。

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019
YAMAGATA International Documentary Film Festival 作品募集ポスター

東北芸術工科大学との連携のもと、グラフィックデザイン学科3年生20名の方々にポスター・デザインに取り組んでいただきました。審査の結果、3年生の安部結(ゆい)さんのデザインに決定しました。



【安部結さんによるデザインコンセプト】

ポスターのテーマは「人々の生活を映し出す」です。ドキュメンタリー映画は、役者が決まっている劇映画に比べて、映画の主題に関わる多くの無名の人が登場します。そこには予想できない瞬間や、人々の繋がりがあります。ありのままを写すからこそ見えてくる日常。一本の映画の中に多くの人が参加して、作り上げられるのがドキュメンタリー映画の魅力だと思います。

わたしは、この階段が映画のフィルムのように見えました。そしてそこを歩いていく人々の姿がまさに、映画へ人々の日常が撮り込まれている様子に重なりました。人々が生活していて、それが自然とドキュメンタリー映画の一部になっていく様子を表現するために、はっきり人がいる、のではなく人の気配がするように気をつけながら制作しました。

アカデミー賞「長編ドキュメンタリー映画部門」の公認山形国際ドキュメンタリー映画祭は、アカデミー賞の「長編ドキュメンタリー映画部門」公認映画祭となりました。これによって、今後インターナショナル・コンペティションの大賞(ロバート&フランシス・フラハティ賞)と、アジア千波万波の最高賞(小川紳介賞)の2作品は、各年度のアカデミー賞に無条件で応募することができるようになります(いわゆる「ノミネート」ではありません)。

— 猫の絵が呼んだ“小さな奇跡”たち —

ミリキタニの猫《特別篇》

ミリキタニの猫

監督:リンダ・ハッテンドーフ
製作:Masa
アメリカ/2006/74分

ミリキタニの記憶

監督:Masa
日本/2016/21分



ニューヨークの日系人路上画家ジミー・ミリキタニ、80歳。2001年9月11日、埃に咳き込む彼を、監督が自宅に招き入れたことで始まった奇跡の物語。失った60年間をとり戻し、友情と芸術で心が救われていく軌跡を映し出す『ミリキタニの猫』。公開後に分かった驚きの事実と出会いをとらえた『ミリキタニの記憶』との2本立て。

10月27日[土]19:00 スロージャム

(フォーラム山形駐車場入口隣/023-687-1320)

※チケット代+ワンドリンクオーダー制/定員40人

10月28日[日]10:00 なごみの里(山形市吉原3-10-8)

千歳公園発 南山形経由 上山行きバス 吉原下車/無料Pあり

※それぞれ30分前開場

上映後、『ミリキタニの猫』製作者/『ミリキタニの記憶』監督 Masa氏のトークあり。ジミー・ミリキタニ氏の原画も展示します。

【料金】前売1,000円/当日1,200円/高校生以下無料

前売券取扱:スロージャム、山形プレイガイド、八文字屋プール

山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー、山形映画祭事務局

主催:フィッシング・キャッツ 後援:認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭



Yamagata City of Film
ユネスコ創造都市やまがた

Creative Cafe

参加無料

第14回 Creative Cafe アジアの映像作家と一緒に

あなたも知らない山寺探検

山形にお招きしたインドネシア・マレーシアなどからの映像作家の皆さんと一緒に、地元の人も知っているようで知らない山寺を散策します(雨天決行)。

10月26日[金] 9:30-12:00

山寺芭蕉記念館前 集合 先着10名

※動きやすい恰好・スニーカーでお越しください。

【申し込み】氏名・連絡先(電話、メールアドレス)を記入の上、メールもしくはファックスで10月20日[土]までお申し込みください。

第15回 Creative Cafe

映像作品を通じた地域の魅力

~CMはロケ地で魅せる~

CMのロケ地を探し出すプロのロケーションコーディネーターの方に、CM制作の舞台裏やロケ地について講演いただき、映像作品を通じた山形の魅力について考えます。

11月15日[木] 18:30 まなび館 交流ルーム7

問合せ:山形市創造都市推進協議会事務局(山形市企画調整部 文化振興課内)

[電話] 023-641-1212 (内線769) [FAX] 023-624-9618

[E-mail] creative-yamagata@city.yamagata-yamagata.lg.jp

www.creative-yamagata.jp



@FilmYamagata

アンドレ・バザン研究会イベント

バザン、レリス、闘牛 映画『闘牛』の上映とワークショップ

上映:闘牛 La course de taureaux

監督:ピエール・ブロンベルジェ
フランス/1951/75分

プロデューサーとして知られるピエール・ブロンベルジェが監督したドキュメンタリー映画。アンドレ・バザンの代表的な論考「すべての午後の死」で中心的に扱われている。また、作家ミシェル・レリスがナレーションを執筆していることでも名高い。



映画解説:谷昌親(早稲田大学)

「映画の生成変化としての闘牛—映画『闘牛』をめぐるA.M.P.M」

ワークショップ発表:

大久保清朗(山形大学)「劇場としてのドキュメンタリー」

千葉文夫(早稲田大学)「ミシェル・レリスによる闘牛技、1937-51年」

角井誠(首都大学東京)

「存在論的猥褻さ」をめぐる—アンドレ・バザンにおける死の表象」

11月11日[日] 10:00-14:00(昼休憩あり) 入場無料

山形大学(小白川キャンパス)人文社会科学部棟1号館

3F 301教室 お車の方は、キャンパス内の駐車場をご利用下さい。

共同主催:表象文化論学会、アンドレ・バザン研究会

問合せ:023-628-4227(大久保研究室)

cahiersandrebazin@gmail.com



311 ドキュメンタリーフィルムアーカイブ

2011年3月11日に起きた東日本大震災の記録映画とその作品資料を蒐集・保存し、作品情報を世界に発信するプロジェクトです。

www.yidff311docs.jp